

## Jゼミ最終発表会が実施されました 1月17日(火)@本校視聴覚室

年間を通して行われてきた研究の成果を、ポスター発表という形で披露しました。過去の発表会でいただいたアドバイスを基に、各班研究に磨きをかけてきてきました。指導助言者の石川県教育委員会大鍛治指導主事をはじめ、多くの先生方や普通科文系の生徒、さらには文系進学予定の1年生の前でこの1年間の集大成となる発表を行いました。発表後には質疑応答の時間もあり、皆自分達の研究を一生懸命伝えていました。

### 今年度のテーマ一覧

- A 物語における継母の役割
- B 豊臣秀吉はどのような政策で天下統一を成し遂げたのか
- C 現代における色のイメージは国によって違いがあるのか
- D 聴いている音楽と性格に違いはあるのか
- E AIを日本の法律が裁く社会は来るのだろうか
- F 日本とドイツのメダル獲得数に影響を及ぼす要素は何か
- G 日本は選挙供託金制度を廃止すれば30代の首相を輩出できるのか
- H ロシアとウクライナの戦争は止めることができたのか
- I 日本の企業は労働時間を減らせるのか



### 《Jゼミを終えて》

- 自分で探した情報をまとめるだけでは「調べ学習」の域を出られず、その調べた内容に加えて自分の新たな考えを打ち出すことが「研究」と呼べるものであるということ、体験を通して知ることができた。
- Jゼミを通して、多方面から物事を見たり考えたりすることに気を付けるようになった。これによって自分が集めた情報から、主観や憶測、思い込みを取り払って考えることの重要性を学んだ。これからも何をするにしても、まずはいろいろな方面から考えようと思う。このような考え方により、テレビで見るニュースなどにも疑問を持つようになった。
- [講評者:石川県教育委員会大鍛治指導主事から]1年間しっかり考え、試行錯誤して研究を進めてきた様子が見られて大変良かったです。この1年で、情報検索・分析力、知らない人の前でプレゼンする力、対立意見を持つ人との合意形成力など、あらゆる力が身についたと思います。欲を言えば、自分たちの研究は面白いものなんだよ！と聞いている人に伝わるような、表情や声まで意識した発表ができるとさらに良くなると思います。来週の合同発表会に期待しています。
- [1年生から]継母の話など、身近なものや親しみのあるものからテーマを決めて研究を深めているのが面白いと思った。プレゼンはもちろん質疑応答でもはっきりと答えている先輩達の姿を見て、本当にしっかりと調べ、考え尽くしてきたのだなと思った。

# 石川県 NSH 課題研究合同発表会

1月24日(火)

●最強寒波の襲来により、本校と七尾、輪島の3校はオンライン発表による参加となりましたが、他に、金沢泉丘、金沢二水、金沢桜丘の各校から合計35の班がステージまたはポスターによる発表を行いました。

会場からの中継  
@教室



会場の様子



会場と学校をオンラインで繋ぎ、本校の代表A班が研究成果を発表しました。8分の発表後、質疑応答の時間が5分間ありました。「どうして物語の悪役の中でも継母を研究対象に選んだのか？」など、他校の生徒からの質問が多く投げかけられ、活発な質疑応答の時間となりました。

校内でiPadに向かって発表



オンラインを含む、6校のステージ発表終了後、会場ではポスター発表が行われました。本校の生徒は現地には行けませんが、ポスター掲示で参加することができました。多くの他校生徒や先生方がポスターの前に足を止め興味深そうに読んでいました。以下は会場で聞かれた感想です。

●[他校生徒から]法律や選挙制度、社会情勢など、アカademikな内容の研究をしているのがすごい。/相当な量の情報収集と整理を経て、各班の問いに迫ろうとしている。ネットではなく書籍や論文による参考文献引用も多く、説得力があると思った。/ニュースで耳にしていたけど、よく理解はできていないようなトピックばかりでとても興味深かった。実際に発表を聞いてみたかったです。

●[他校教員から]一見調べ学習に帰結してしまいそうな内容でも、最終的に学んだことを自身の生活や思考に取り入れることができている。/ 校内の調査に留まらず、ALTや留学生にもインタビューやアンケートを採っているのがいいですね。



4月のJゼミ開講以来、熱心に頑張る皆さんの横顔を見守ってきました。今を生きる高校生の目線で、「こんな問題があるのはなぜ?」「この問題を解決するにはどうしたらいい?」という疑問を出発点に、こだわりぬいて研究を続けてきました。考え、調べ、意見を交わし、新たな切り口を見つけてまたそこから思考する、という経験を積んできました。この経験や成果は来年度の大学入試に生かされるだけでなく、大学での研究活動や、社会人になってから答えがない課題に直面したときにも必ず生きてくると信じています。本当にお疲れさまでした!